ソフトウェアのシステムの作用

中小路 久美代[1,2]

概要：我々の日常は、多様なソフトウェアシステムによって支えられ取り囲まれている。ソフトウェアシステムは人々の暮らしに合わせて構想され、人々の営みはソフトウェアシステムの有り様に合わせて変化する。本講演では、アーティファクトの機能と作用という二つの概念に着目する。機能から導き出される結果（consequence）、機能がもたらす効果（effect）、機能が及ぼす影響（influence）といった、異なるレベルで作用を捉え、次に、狙いとする作用に基づいて機能をデザインすることを考える。ソフトウェアシステムに何を求めるかということと、ソフトウェアシステムで何を狙うかということの関係を論じ、ソフトウェアシステム開発における課題に触れる。

[1] 京都大学学際融合教育研究推進センターデザイン学ユニット
[2] 株式会社 SRA 先端技術研究所

© 2015 Information Processing Society of Japan